

# 新<sup>しん</sup> 緑<sup>みどり</sup> ニュース



病院の理念

確かな医療技術  
やさしい対応  
地域への貢献

医療法人社団 **三喜会** 横浜新緑総合病院  
〒226-0025 横浜市緑区十日市場町1726-7  
TEL. 045-984-2400 (代表) FAX. 045-983-4271  
発行 地域医療連携室 TEL.045-984-6216 (直通)



## 感染管理認定看護師の活動

感染管理室 看護部 係長 佐藤 由有子 (感染管理認定看護師)

### 【院内感染とは】

「院内感染」とは、病院の中で①患者さまが元々の病気とは別に新たに罹患した感染症②職員が就業中に感染した感染症のことを言います。人から人へ、または、職員・医療機器や環境を介して伝播します。

病院は、感染症の治療を目的に来院される患者さまや、高齢者・免疫力の低下した患者さまがおり、院内感染が起きやすい環境です。



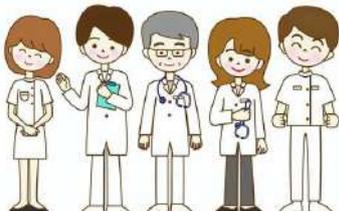
そのため、全職員、さらには、来院される患者さまやご家族にもご協力いただき、外来、病棟を含め病院全体で感染対策に取り組む必要があります。

当院では、院内感染を未然に防ぐことを第一とし、感染症を早期発見できる体制を整備しています。また、感染症が発生した場合には、拡大しないように対応し、拡大が認められた場合も、原因を速やかに特定して、早期終息に努めています。

### 【当院の感染管理の体制】

院長を中心とした「感染対策委員会」、実働部隊である「院内感染対策チーム (ICT)」、看護師による「感染リンクナース会」で構成されています。

1. 全ての医療従事者が、必要な感染対策を遵守できるよう、マニュアルを整備し、教育と訓練を行っています。
2. 定められた感染対策が、各部署において適切に実施されているかを確認するために、ICTが定期的に各部署を巡回し、評価、指導を行っています。
3. 「サーベイランス」という調査を実施し、院内感染や



薬剤耐性菌の発生状況を監視し、迅速に対応しています。

4. 手指消毒や、マスク・手袋の正しい着用など、基本的な感染対策を、ひとりひとりの職員が、確実に実施できるよう、支援しています。



### 【地域に対する活動】

1. 院内で感染症対策を実践するだけでなく、地域の医療機関と連携し、お互いの病院を訪問して、感染対策の相互評価を行って、感染対策の質の維持を図っています。
2. 保健所や地域医療機関と連携し、地域の感染対策にも取り組んでいます。
3. 連携している施設を訪問し、施設内の感染対策を評価したり、研修を実施しています。
4. インフルエンザやコロナウイルス感染症などが拡大している施設を訪問し、アドバイスを行って、感染が早期に終息するよう支援をしています。

### 【ご来院の方へのお願い】

外来受診やお見舞いにいらっしゃる際には、手指衛生とマスクの着用をお願いしております。



院内には感染症の患者さまがいる一方で、感染症を起こすと重篤となりやすい、ご高齢の患者さまや、抗癌剤治療などにより免疫が低下している患者さまも多くなります。

ご自身を感染症から守り、さらに、重篤となりやすい患者さまを守るためにも、ご協力をお願い致します。

マスク着用をお願い



WEB版みんなの健康講座 3月配信予定

※オンライン配信

「治す」を目指して、もっと知ってほしい～増え続けている大腸がんのこと～

副院長 消化器センター長 外科・消化器外科部長 齊藤 修治





## グッドジョブコンテストの結果発表

昨年6月より実施しておりましたグッドジョブコンテストのグランプリが決定しました。

グッドジョブコンテストとは「日々実践する改善活動を共有し、成果を称えると同時に継続した改善活動を称える」院内イベントのことです。

各部署エントリー作品（全10演題）の中から、投票の多かった3演題を金賞・銀賞・銅賞とさせていただきました。業務改善やコスト削減に通じる内容が多く、来年度も更なる業務精度の向上を目指してまいります。



### 金賞

●エントリー者:

医事課  
外来 富永 悠太

●取り組みタイトル:

「研修の悩みを解決！ 新入職員の『?』をぎゅっとまとめました」



### 銀賞

●エントリー者:

医事課  
外来 大田 彩葉

●取り組みタイトル:

「マイナで参ろう！ マイナ保険促進の取り組み」



### 銅賞

●エントリー者:

副院長兼乳腺外科部長  
大地 哲也

●取り組みタイトル:

「RRSはじめました～」  
※RRS (Rapid Response System)



## 言語聴覚士（ST）主催の地域連携研修会を開催しました

2025年1月20日言語聴覚士（ST）主催の地域連携研修会を当院で行いました。

当院の近隣には多くの高齢者施設があり、施設入居の方々が、入院や外来をご利用されています。その近隣施設職員の方々と誤嚥性肺炎を繰り返す患者さまの嚥下や食事で困っていることを共有したいと考え、テーマを『摂食嚥下患者さまを知ろう！』と設定しました。このような機会を持つことは初めてで、日頃お世話になっている近隣施設職員の方々と顔を合わせられることを一同楽しみに当日を迎えました。



研修会は全2回で今回は『摂食嚥下の基礎知識』と『姿勢調整による嚥下の変化』について、座学と実習、グループディスカッションを行いました。

参加者の職種は言語聴覚士（ST）をはじめ作業療法士、介護士、歯科衛生士、栄養士、相談員と様々で、それぞれの視点からの『嚥下や食事で困っていること』が見え、共有することができてとても実りのある研修会でした。中でも当院理学療法士によるポジショニングの実習が好評でした。

なお2回目の研修会にご興味がある施設の方がいらっしゃいましたら、まだお申込みできますのでお早めにリハビリテーション部言語聴覚療法科までご連絡ください。



## 緑区消防出初式に参加しました

1月11日（土）「令和7年緑区消防出初式」が開催され、当院より齋藤副院長と村松事務長が出席しました。

鴨居郷土芸能保存会による獅子舞の披露や、消防団・自衛消防隊消防操法展示、大災害を想定した消防総合訓練など行われました。十日市場中学校吹奏楽部による演奏も素晴らしく、快晴の中での一斉放水は虹が架かり来場者から大歓声と拍手に包まれました。

2024年は緑区内の火災発生件数が横浜市内で最も少なく、日頃から地域の事業所や住民の高い防火意識が寄与した結果であるとの事でした。今後とも地域交流の場には積極的に参加し、医療機関として災害に対する意識を高めていければと思います。

